

各位

三神地域農業指導者連絡会作物部会
三神農業振興センター

「稲作情報（第3号）」について（送付）
このことについて、下記のとおり送付しますので、業務の参考にして下さい。

稲・大豆作情報（第3号）

1. 情報田生育調査結果について

(1) 耕種概要

品種名	夢しずく (上峰町)	さがびより (みやき町)	ヒヨクモチ (神崎市)
移植日(月日)	6月11日 (平年：6/9)	6月18日 (平年：6/20)	6月23日 (平年：6/19)
栽植密度(株/m ²)	15.6 (52.1株/坪)	16.8 (55.9株/坪)	18.7 (62.2株/坪)

(2) 調査結果（夢しずく：7月19日現在、さがびより・ヒヨクモチ：7月20日現在）

品種名	夢しずく	さがびより	ヒヨクモチ
草丈(cm)	79.2	43.4	33.2
平年値(平年比)	71.3(111)	47.6(91)	42.2(79)
莖数(本/m ²)	275	321	309
平年値(平年比)	334(82)	421(76)	600(51)
葉齢(L)	10.4	9.8	9.4
平年値(平年差)	10.4(+0.1)	10.1(-0.4)	10.4(-1.0)
葉色(SPAD値)	39.1	35.7	36.6
平年値(平年差)	41.2(-2.1)	41.0(-5.3)	40.8(-4.2)

概況

気象（7月13日～19日までの期間）

【平均気温】平年より1.7℃高い。

【日照時間】平年比106%と長い。

【降水量】平年比35%と少ない。

生育（平年と比較して）

草丈：「夢しずく」は高く、「さがびより」「ヒヨクモチ」は低い。

莖数：全品種で少ない。

葉齢：「夢しずく」で平年並、「さがびより」「ヒヨクモチ」は遅れている。

留意点

「さがびより」は移植後1週間頃から、「ヒヨクモチ」は移植直後から降雨が多く、浸冠水および深水が続いた影響による莖葉の損傷や生育の停滞がみられた。

注1)「夢しずく、さがびより」の平年値は、過去7か年の数値を7月19日又は20日に換算し、そのうち最高、最低を除いた5か年の平均値。

「ヒヨクモチ」はR1,2年データ欠損のため、平年値はH28～R4(R1,2除く)5か年の平均値。

注2)ラウンドの都合で小数点以下が一致しない場合がある。

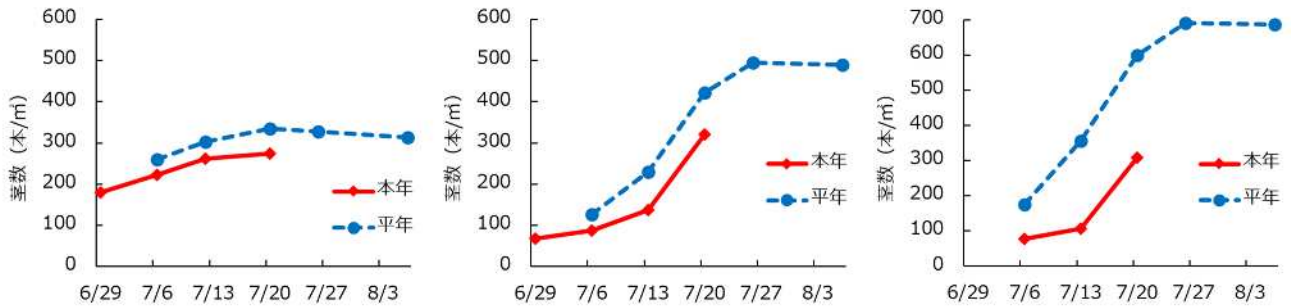


図 茎数の推移 (左：夢しずく、中：さがびより、右：ヒヨクモチ)

農業試験研究センター米づくり情報3号 7月18日(抜粋)

移植日	項目		草丈 cm	茎数 本/m ²	葉齢 L	葉色 SPAD	概況 (平年と比較して)
	品種	年次					
6月19日	夢しずく	本年	46.9	291	9.3	38.9	[気象] 7月10日～17日まで ◆平均気温…平年より1.4℃高い ◆日照時間…長い(平年比 108%) ◆降水量…多い(平年比 241%) [生育] ◆草丈 「ヒノヒカリ」は低く、その他の品種ではやや低い ◆茎数 全品種少ない。 ◆葉齢 「夢しずく」は平年並み、「ヒノヒカリ」及び「さがびより」は遅く、「ヒヨクモチ」は進んでいる。 ◆葉色 (SPAD) 「夢しずく」は高く、「ヒノヒカリ」はやや低く、「さがびより」「ヒヨクモチ」は低い。
		平年	48.7	348	9.4	37.5	
		平年比(差)	96	84	-0.1	+1.4	
	ヒノヒカリ	本年	39.9	372	8.6	40.5	
平年		43.3	476	9.5	40.8		
平年比(差)		92	78	-0.9	-0.3		
6月20日	さがびより	本年	39.9	281	8.8	36.7	
		平年	41.6	372	9.5	41.3	
		平年比(差)	96	76	-0.7	-4.6	
	ヒヨクモチ	本年	38.0	573	10.4	38.7	
平年		39.2	630	9.9	41.3		
平年比(差)		97	91	+0.5	-2.6		
留意点	○ 茎数の少ない圃場では浅水管理を行い、分けつ促進に努める。 ○ 必要な茎数が確保できた圃場においては、中干しを実施する(※令和5年産は全体的に茎数は不足気味)。「夢しずく」は7月第5～第6半旬に幼穂形成期となるため、それまでに中干しを終了する。 ○ トビイロウンカ及びコブノメイガの発生に注意する。						

2. 普通期水稻の今後の管理について

これまでの寡日照や大雨による深水管理などの影響により、中晩生品種を中心に軟弱徒長となり、茎数が不足している圃場が多い。

今後は、浅水管理や間断灌水を徹底して、有効茎数の確保に努める。

(1) 水管理

- 分けつ数確保のため、浅水管理、間断灌水を徹底する。
- 1株あたり茎数が確保できた圃場は落水し「中干し」を実施する。
- 中干し後は、間断灌水(断水期間をやや長く行う)を行い株元の地固めに努める。中干しは、土が軽い亀裂が入り足跡がわずかにつく程度とする。
- 中干時期の目安は以下のとおり

① 「夢しずく」

移植が6月10～14日頃の圃場では7月中旬頃から。

1株あたり茎数が18本以上。

②「ヒノヒカリ」・「さがびより」・「天使の詩」・「ヒヨクモチ」

移植が6月20日頃の圃場では7月下旬から。

1株あたり茎数が20本以上。

本年は初期分けつが少ない傾向のため、茎数を確認してから実施し、強い中干しは行わない。

～中干しの効果～

- 無効分けつの発生を抑制する
(過繁茂防止、生育量の適正化)
- 田面を固める
(収穫作業と麦播種作業の効率化)
- 土壌中に酸素を送り、根の活力UP、有害ガスの除去

土は黒く軽くヒビが入る程度



(2) 追肥

・「ヒヨクモチ」は、中間追肥の時期を迎えている。

元肥にL P肥料や元肥一発肥料等を使用した圃場以外では、下の表1を参考に圃場の生育状況に応じ、中間追肥を施用する。

表1. 「ヒヨクモチ」の中間追肥時期

品種名	移植時期	中間追肥の時期	施肥量の目安
ヒヨクモチ	6月18～20日	7月15～20日頃	地区暦に準じて行う

※元肥に有機肥料を使用した圃場や大豆跡は中間追肥を除く。

(3) 穂肥

・夢しずくは7月下旬頃から穂肥の施用時期を迎える。

必ず「穂肥診断」(葉色と幼穂長を確認)を実施し、下の表2を参考に穂肥を施用する。

・葉緑素計 (SPAD) で葉色 40 以上又は草丈 80cm 以上の圃場で穂肥は施用しない。

表2. 夢しずくの穂肥診断基準

幼穂形成始期草丈	葉色		施用時期		穂肥施用量	現物量(BB602)	
	群落	葉緑素計	出穂前	幼穂長	窒素成分 kg/10a	山麓	平坦
73cm 以下	3.0 以下	34 以下	20～22 日	1mm	3.0	20kg	15kg
	3.0～3.5	38 以下	18～20 日	2mm	3.0	20kg	15kg
	3.5～3.8	38～39		2mm	1.5～2.0	10kg	
	3.8 以上	40 以上	18 日	2mm	1.0 以下	7kg	
73～79cm	3.0～3.5	34 以下	18～20 日	2mm	1.5～2.0	10kg	
	3.5～3.8	38～39	18～20 日	2mm	1.0	7kg	
	3.8 以上	40 以上			施用しない		
80cm 以上	原則として施用しない						

表3. 穂肥時期の目安

移植時期	穂肥の目安（平年）	出穂期（目安）
6月10日	7月23～25日	8月14日前後
6月15日～	7月25～27日	8月16～17日

注1) 早すぎる穂肥 → 止葉が伸び、倒れやすく、籾数が多すぎて登熟が悪くなる
遅すぎる穂肥 → 籾数が少なく、減収し、米の蛋白含量が高く食味が落ちる


注2) 多すぎる穂肥 → 倒れやすく、籾数が多く登熟が悪く、蛋白含量が高く食味が落ちる
少なすぎる穂肥 → 籾数が少なく、減収し、米がやせて品質が落ちる

注3) 中干し直後に葉色が淡く草丈が低い圃場についても、中干しの乾土効果（土壌中の有機体窒素が分解によって水稻に吸収される形になる）により、急激に葉色が濃くなる場合があるため、圃場の状況に合わせて散布する。

(4) 病虫害防除について

①海外飛来性害虫

- ・梅雨の前線に伴うトビロウンカ飛来（6/30～7/13）が県西部で確認されている。
- ・平坦部では、トビロウンカの寄生は確認されていないが、移植時期や品種により状況は異なると考えられるため、発生状況を注視する。
- ・県農業技術防除センターから 7/18 に情報提供された発生予測図は右図のとおり。
- ・今後、発生予測は随時更新されるため、防除の考え方等については、最新情報を農業技術防除センターのホームページで確認し、適期防除に努める。

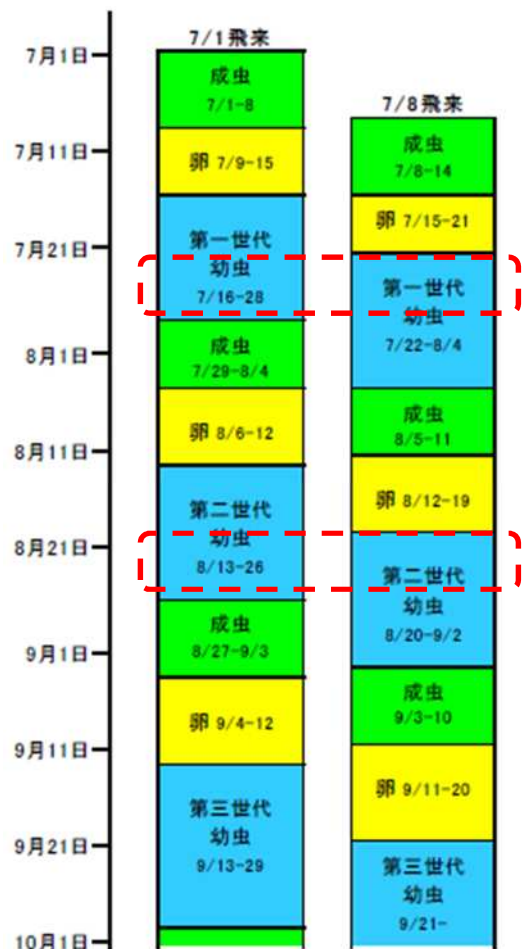
佐賀県 農業技術防除センター 

②いもち病

- ・本田で新たな病斑の発生が認められた場合は防除を検討する。
- ・補植用の苗を圃場に放置すると、いもち病の温床となるので早急に撤去する。

③スクミリンゴガイの被害について

- ・食害が見られる圃場では、落水～浅水管理で活動を抑制するとともに、必要があれば薬剤防除を実施する。



(5) 除草作業

- ・除草剤が散布できなかった圃場や除草剤処理後に田面が露出した圃場などでは、除草剤の効果が低下したため、雑草の発生が見られる。
- ・このような圃場で、放置するとヒエや広葉（コナギ・アゼナ）が繁茂し、薬剤による雑草防除が困難となるため、中後期除草剤との体系処理を検討する。
- ・除草剤の散布時期については、農薬の使用基準を順守し、収穫前日数に注意する

大豆の今後の管理について

播種適期を迎えているが、降雨日が多く、播種できていない圃場も多くみられる。圃場が耕起可能な条件が整い次第すみやかに播種する。これから播種する圃場では、栽植密度を増やし、収量確保に努める。

1) 今後の天候について

参考) 週間天気予報 (佐賀県 7月20日 11時時点 佐賀地方気象台より)

今日 20日(木)	明日 21日(金)	明後日 22日(土)	23日(日)	24日(月)	25日(火)	26日(水)	27日(木)
曇	晴時々曇	曇一時雨	曇時々晴	曇一時雨	曇一時雨	晴時々曇	晴時々曇

2) 圃場準備について

- ・荒起しは圃場が乾くのを待ち、播種前日～当日に行う。播種後に晴天が予想される場合には、乾燥による発芽率の低下が懸念されるほか、耕起後に雨が降ると水を多く含み、播種が暫くできなくなるため、荒起こしと播種耕起の間隔を空けないようにする。

3) 播種について

○種子消毒

- ・紫斑病やその他の雑菌の防除効果が高く、腐敗防止や発芽率の向上に効果がある為、種子消毒(クルーザーMAXX、キヒゲンR2フロアブル)を実施する。

○播種量

- ・大豆の収量を確保するために、播種時期にあった播種量を選択し、栽植密度を調整する。

播種期	栽植本数 (本/m ²)	栽植様式 条間×株間×1株本数	播種量 (kg/10a)
7月11～20日	10本	75×25×2	3.0～3.5
7月21～31日	13本	75×20×2	4.0
8月～	18本	(2条)75×15×2	5.3
	20本	(3条)50×20×2	6.0

○播種深度等

- ・播種後に降雨が多い予報の場合は2～3cmの浅め、晴天が続く場合や土壌が乾燥している場合は4～5cm前後の深めに播種する。
- ・鎮圧は土壌表面が乾いた後に行う。播種機の鎮圧輪で種子直上が窪むと雨水が集中するため、鎮圧後のうね形状には注意する。
- ・1工程で播種する場合には、砕土率を高めるため、作業速度を遅くする。

4) 除草剤について

○播種前処理

- ・雑草発生が目立つ圃場では、播種前に非選択性茎葉処理剤(ラウンドアップ、プリグロックス等)の散布や、播種直後に土壌処理剤の散布を行う。その際、周囲の水稻等への飛散がない様注意する。
- ・非選択性茎葉処理剤の使用に当たっては耕起前日でも枯殺可能。(ラウンドアップは1日で吸収移行、散布後1時間後の降雨 OK、プリグロックスは1日程度で効果発現、散布後15分後の降雨 OK)

○播種後処理

- 播種直後に土壌処理剤を散布する。難防除雑草のヒロハフウリンホオズキ、ホソアオゲイトウの発生が多い圃場ではフルミオ、ラクサー乳剤の除草効果が高い。

5) 中耕・培土の実施

- 本葉が3枚開いているのを確認したら、子葉が隠れる程度まで1回目の培土を、本葉が5枚開いたのを確認したら、初生葉（子葉の上の葉）が隠れる程度まで2回目の培土を行う。
- 特に、降雨等で除草剤の散布ができなかった圃場では、早めの中耕培土で雑草対策を行う。

